

筑波大学新聞

第354号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699
E-mail
shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

五輪で土曜授業 2学類実施せず

本紙調査 「予習や復習の時間減る」

筑波大は昨年7月、東京五輪・パラリンピックの大会期間中に授業や試験を原則行わないとする来年度の学年暦を発表した。授業時間を確保するため、春学期に計8回、土曜日に授業をするとしている。しかし、本紙が昨年12月に全ての学類・専門学群を対象に行った調査によると、2学類で土曜授業を実施しないことが分かった。予習や復習に使う時間が減ることなどを考慮したという。(西村大祐)人文学類2年、国井俊介)社会学類2年、田所涼)教育学類2年、遠子内早紀)同2年、10面に関連記事

2020年度各学類・専門学群の土曜授業の実施方針

- 実施する** 人文、比文、日日、国際、教育、障害、物理、地球、地球、物理、化学、知能、医学、看護、医療、医療、体專、看護、医療、医学、芸術
- 実施しない** エシス、情科
- 未定** 社会学、心理学、数学

(本紙調査から作成)

スポーツ庁と文部科学省は全国の大学や高専に対し、大会期間中の授業日程変更など柔軟な対応を求める通知を出している。学生のボランティアへの参加などを想定した措置で、筑波大も五輪・パラリンピックの活動に全学的な協力をすると発表していた。計25の学類・専門学群のうち土曜授業を行わないと回答したのは工学システム学類と情報科学類。20の学類・専門学群が学年暦通りに土曜授業を実施すると回答し、社会学、心理学、数学の3学類は「未定」とした。情報科学類では、土曜授業を行う予定だった科目の開講期間を、春ABCモジュールから春ABCモジュールに授業する

と、学生は予習や復習が間に合わなくなる恐れがある。一方で、課題を減らすなどの対応を取れば教育の質に響いてしまう」と話し、土曜授業を行うと

また、土曜授業を行うと回答した学類・専門学群からも非常講師が担当する授業では日程調整が必要▽土曜日に部活動の大会に出場する学生への対応を考慮しなければならない▽休日

が減ることによって学生の休息時間が減少する。などの懸念が聞かれた。

本紙調査は全ての学類・専門学群長に電子メールで質問内容を送付する形式で実施。1月8日までに24の学類・専門学群から回答を得た。比較文化学類は1月16日、本紙の取材に応じ、回答した。

「地域医療支援の拠点へ」

患者宿泊可能な複合施設に

市消防本部跡地

つくば市の春日消防本部跡地(同市春日、面積約8200平方メートル)に、筑波大附属病院の患者や家族の宿泊などができる複合施設が建設されること分かった。筑波大が主体となり、公共サービスに民間の資金やノウハウを活用するPFI事業として実施する。施設の一部を、市の児童発達センターも入居する見込みだ。(大和祐菜)障害科学類1年、西村大祐

跡地は附属病院の南側正門、コンビニエンスストア面があり、2022年の施設完成を目指す。周囲の医療機関と連携したりハビリ施設や宿泊者のための飲食

宿泊施設建設予定地の周辺図



しか受けられない先進医療を行っており、遠方から来院する患者も多い。これまでは不動産業者と提携し、アパートを借り上げるなど

し、患者やその家族の宿泊場所を確保してきた。新施設が完成すれば、患者の利便性向上にもつながる

当者は、「周辺の医療機関と連携し、地域医療支援の拠点として」と話した。

同センターは筑波大と連携し、人間系や医学医療系の教員の助言や指導を受けたり、重度障害児に対する医療的なケアを提供したりすることも予定している。

「PFI事業」は「Private Finance Initiative」の略。公共施設の建設や運営管理に民間の資金やノウハウを活用する手法のこと。

民間主導で実施することによって、より効率的な公共サービスの提供を図る狙いがある。

筑波大 新春の箱根路駆け抜ける



神奈川県箱根町で木村誠(人文学類3年)撮影

26年前と同じ黄色いたすきをかけ、「いだけん」は箱根に舞い戻ってきた。(大和祐菜、2、8面に関連記事)

大学新聞コンテスト

本紙 4年ぶりの朝日新聞社賞

記事賞・連載賞を同時受賞

その年の最も優れた大学新聞を決める「第9回大学新聞コンテスト」(関東学生新聞連盟・東京五大学新聞連盟など主催、朝日新聞社・日刊スポーツ新聞社特別後援)の一般新聞部門で本紙は、最優秀賞にあたる「朝日新聞社賞」を受賞した。本紙の同賞受賞は4年ぶりの2回目。また、記事賞と連載賞を初めて同時受賞した。表彰式は昨年12月19日に朝日新聞東京本社(東京都中央区)で行われた。(本紙編集部)

連載賞となった「Think LGBT」は2018年7月(第343号)から本紙が続けている連載記事で、性的少数者を取り巻く社会の現状や課題などを報じてきた。18年9月のオンパレードの専門家や当事者、街頭での市民らの取材のほか、日本の動向も丁寧に取り上げてきた点が評価された。

朝日新聞社賞の受賞を受け、本紙記者が筑波大の永田恭介学長と稲垣敏之副学長(総務・人事担当)を表敬訪問。永田学長は「これからも事実をしっかりと追いつめる筑波大学新聞の報道に期待したい」と激励した。



表彰される木村誠・前編集長(右)(昨年12月19日、朝日新聞東京本社で) = 西村大祐撮影

木村誠本紙前編集長(人文3年)は「継続的な取材が評価されうれしい。今後も多くの人に読まれる新聞を目指したい」と話した。

注目記事

- フィリピンで睡眠薬強盗被害
- 構成3年展覧会 力作40点展示
- 男子バスケ インカレ優勝
- アプリでごみ捨て情報通知
- 電力自由化でトラブル相次ぐ

11 10 9 5 2

特集

教員人生の軌跡 & 旅立つアスリート 6・7

ミニ特集

発足から2年 ADの現状と課題 3

筑波お話し

常磐道を使えばつくば市から車で1時間ほど。住宅街に囲まれて、巨大な排気筒と建屋がそり立っていた。東日本大震災を機に運転を停止したままの東海第2原発(茨城県東海村)だ。再稼働の是非を巡る議論は今も続く▼原発の扱いは、エネルギー政策の大きな争点となっているが、大学生活を送る上で存在を身近に感じることがなかった。永田町で政治家が扱う問題だというイメージもあり、話題にするのも避けてきた。そんな折に知人の誘いで東海村を訪れた▼「原発がなくなったら困る」。そう話すのは原発関連企業で働く村の男性だ。妻と2人の幼い娘を養っている。一方で「昔から家族で暮らしてきた大切な故郷。福島のような事故で失うのが怖い」と話す村民も▼東海村で出会ったのは、原発と向き合いながら暮らす「普通」の人々だった。原発への賛否それぞれが、生活に直結した切実な声だった。電気は誰もが使うものであり、原発の問題は他人事でないという気がされた▼いばらき原発県民投票の会が1月から、県内各地で署名活動を開始した。東海第2原発再稼働の賛否を問うための県民投票条例制定を知事に請求するためだ。原発のことは分らないと、専門家任せにせず、「普通」の人たちで話し合おうという動きが広まりつつある。少し肩の力を抜いて、今度は私なりの立場で原発に向き合ってみよう。

箱根駅伝 筑波大総合20位に終わる

弘山監督「甘くはなかった」

【東京都千代田区、神奈川県箱根町など本紙取材班、8面に関連記事】第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)は、2日に読売新聞社前(東京都千代田区)から芦ノ湖駐車場入り口(神奈川県箱根町)までの往路5区間107.5キロが、3日に芦ノ湖駐車場入り口から読売新聞社前までの復路5区間109.6キロが行われた。26年ぶり61回目の出場となった筑波大は総合11時間16分13秒で総合20位となり、目標のシード権獲得はならなかった。



レース後にあいさつをする弘山勉監督(左) (1月3日、東京都千代田区) = 木村誠撮影

筑波大は1区(西研人)の相馬崇史(同3年)も大(体専3年)が区間11位に、4区の大土手嵩(同3年)が区間19位に沈むと、5区の19位で終えた。13位以下が一斉スタートとなった復路では、9区(川瀬由夢(医学5年)が区間14位と健闘を見せるも鶴見中継所(横浜市鶴見区)で惜しくも繰り上げスタートとなり、たすきが途絶えた。10区では尾玉朋大(体専3年)が区間16位と奮闘したものの、復路は5時間38分20秒で20位となった。

弘山勉監督は「シード権獲得に向けて努力してきたが、箱根の舞台は甘くなかった。この経験を糧に、大学を挙げて頑張っていく」と大会を総括した。大会終了後の3日午後4時から、大手町サンケイプラザ(東京都千代田区)で結果報告会が行われ、弘山監督や出走した選手らが大学関係者やクラウドファンディングによる支援者らに「箱根駅伝に再び咲くために支援と応援を頂いたことに感謝したい」などとあいさつした。

筑波大は1月16日、スマートフォン向けアプリ「TSUKUBA FUTURESHIP」のiOS版とAndroid版の無料配信を始めた。筑波大への寄付金の受付や、筑波大に関するニュース配信の機能があるほか、本紙のPDF版を読むこともできる。

事業開発推進室によると、アプリは筑波大が2023年に開学50周年を迎えることから、その記念事業への寄付金を集めるために制作されたという。筑波大の卒業生や在学生などと呼びかけ、10億円の寄付を集めることを目標としている。

閲覧できるのは、大学のウェブサイトに掲載されている「注生に激励の言葉を送った。最後に、駅伝チームの植田樹(物理4年)が、箱根駅伝における筑波大の歴史や箱根駅伝復活プロジェクトについて紹介し、駅伝チームのこれまでの取り組みを発信した。2日間にわたる大会では、各區間に応援拠点が設

けられ、沿道で多くの人が筑波大に声援を送った。筑波大応援部WINSも予選会に引き続き、パフォーマンスを披露した。【繰り上げスタート】中継所で規定の時間内に前の走者が来なかった場合に次の走者を出走させること。

筑波大と茨城県、つくば市などがまとめた提案が、地域での交通課題の解決に先端技術を活用して都市や地域の課題を解決する国のスマートシティ関連事業に採択された。筑波大などは、地域での交通課題の解決に向けて、▽筑波キャンパス内の人の移動実態の調査▽顔認証でバスの乗降決済▽機械学習などを用いたバス運行の最適化—といった「マサ」を提案。加えて、筑波大附属病院付きのバスに乗りすると、顔認証で病院の受付も同時にできたり、車いす利用者などが事前にスマホアプリで申告すると、バス乗降の支援をよりスムーズに受けられるという「医療Maas」も提案されている。(木村誠)

井出里咲子准教授(人社会系)は、筑波大の留学生やその家族と、家族が通う保育園との間で生じているコミュニケーションのずれをアプリはiOS版、Android版が無料で配信されている。(木村誠) Maas(モビリティ・アズ・ア・サービス)は、情報通信技術を駆使し、鉄道やバス、自転車、自動車などあらゆる交通手段による移動を一つのサービスとして提供する新たな移動の概念。

死んだ事件や、目覚めるという見知らぬ家におり、「暴行された」と因縁をつけたら、慰謝料を請求された事件などが起きている。被害者は英語が話せ、旅行慣れしていることが多いという特徴もあり、十分な注意が必要だ」と話した。筑波大では年2回、長期休暇前に海外危機管理セミナーを実施しており、その様子や学習管理システム「mana」の「海外安全危機管理コース」で公開している。海外渡航の際、筑波大は、同セミナーの視察や確実な海外渡航届の提出を求めている。また、大学主催プログラムへの参加には海外安全危機管理サービス「OSSMA」への加入を義務化しており、私的渡航でも加入を推奨している。(森賀遼太(社会学類3年)

「筑波大学アプリ」リリース ニュース閲覧・寄付機能を搭載

「筑波大学アプリ」リリース ニュース閲覧・寄付機能を搭載

「筑波大学アプリ」リリース ニュース閲覧・寄付機能を搭載

「筑波大学アプリ」リリース ニュース閲覧・寄付機能を搭載

「筑波大学アプリ」リリース ニュース閲覧・寄付機能を搭載

「筑波大学アプリ」リリース ニュース閲覧・寄付機能を搭載

「筑波大学アプリ」リリース ニュース閲覧・寄付機能を搭載

筑波大生 睡眠薬飲まされ強盗被害

フィリピン・マニラ 26万円奪われる

昨年9月、フィリピンの首都マニラで筑波大の男子学生が睡眠薬強盗の被害に遭い、日本円相当で約26万円を奪われた。

被害学生は2人と夕食を取ろうと、レストランへ向かう途中、女性らに促されて飲食をした。移動中に女性らに目撃された。宿泊していたマニラ市内のホテルの自室にいた。

同課によると、財布から現金7000円が抜き取られ、クレジットカードから不正に約25万円のキャッシングをされた。男子学生は睡眠薬を飲まされたこととみられ、左腕にはやけどの痕があったという。



被害現場の周辺地図

被害現場の周辺地図

被害現場の周辺地図

被害現場の周辺地図

被害現場の周辺地図

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

被害学生は自費で、フィリピンのセバ島にある英語学校で研修を受けていた。事件当時は、研修を終えたマニラ観光をしていた。

広告掲載欄

(紙面のみでの掲載となります)

広告のお問い合わせは
電話 029 - 853 - 6699
Eメール shinbun@un.tsukuba.ac.jp
(筑波大学新聞へのご意見・お問い合わせも上記までお願いいたします)

多文化共生考える 延べ1700人が参加

第2回国際シンポジウム「地域社会と多文化共生」(日本語・日本文化学類など主催)が1月12、13日に筑波大で開かれ、学生やつくば市民など延べ約1700人が参加した。留学生などの外国人が多いつくば市が抱える課題や、韓国やシンガポールの文化に関する研究について議論が行われた。

井出里咲子准教授(人社会系)は、筑波大の留学生やその家族と、家族が通う保育園との間で生じているコミュニケーションのずれをアプリはiOS版、Android版が無料で配信されている。(木村誠) Maas(モビリティ・アズ・ア・サービス)は、情報通信技術を駆使し、鉄道やバス、自転車、自動車などあらゆる交通手段による移動を一つのサービスとして提供する新たな移動の概念。

保護者側には、「お弁当の日」「運動会」など日本語の文字は読めても、母国語の文字は読めていないという声も聞かれた。(越智夏川)

同様の習慣や行事がなく、具体的に何をすれば良いのか分からないなどの悩みがあり、保育園側には「保護者が、連絡を理解しているかどうか分からない」という声があるという。

澤田浩子准教授(同系)と松崎寛准教授(同系)は、つくば市に住む外国人がどのような経緯で増えてきたのかを説明した。筑波大が留学生受け入れを推進したことで近隣小学校の外国人児童が急増し、ボランティアなどが行ってきた日本語の学習支援が追いついていない現状を紹介した。

参加した学生は、「たとえ日本語が話せても、習慣や文化を理解していないと生活するのが難しい」と知ったと話した。(越智夏川)

共通テスト 記述式導入見送り

今後の対応は未定

大学入試センター試験に代わり2021年度入試から始まる大学入学共通テストで、文部科学省は国語と数学の記述式問題の導入を見送った。これを受け筑波大は、同セミナーの視察や確実な海外渡航届の提出を求めている。また、大学主催プログラムへの参加には海外安全危機管理サービス「OSSMA」への加入を義務化しており、私的渡航でも加入を推奨している。(森賀遼太(社会学類3年)

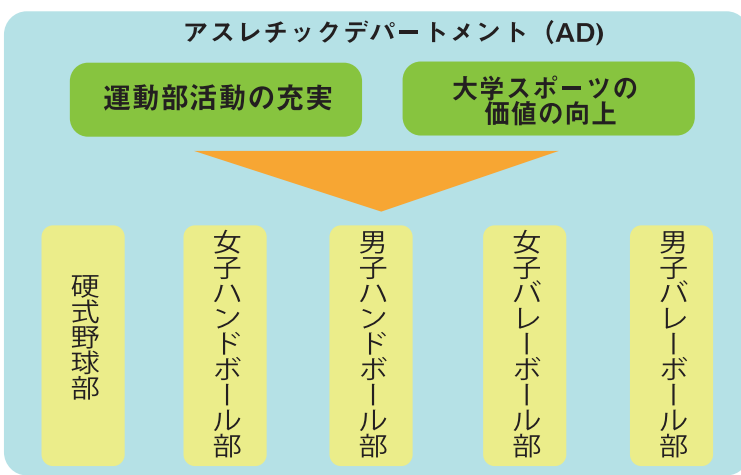
発足から間もなく2年…… 筑波大 AD の現状と課題

大学が運動部を主体的に運営する組織「筑波大学アスレチックデパートメント(AD)」を筑波大が設立してから間もなく2年。加入するのは男女ハンドボール部、硬式野球部の5運動部に留まるが、全国大会での活躍が目立っている。昨年の全日本学生選手権で14年ぶりに優勝した男子ハンドボール部の藤本元監督(体育系・助教)は、「ADが招いたトレーナーらの指導のもとで体作りを進め、過密日程の中でも戦い抜くことができた」と語る。AD関係者に、取り組みの成果や今後の課題を取材した。(豊岡恵二比較文化学類、飯田健介、國井俊介II社会学類、加藤優花II国際総合学類、遠子内早紀II教育学類、大和祐菜II障害科学類)

スポーツの「健全化・最大化」を目指す

設立は国内初

ADの佐藤壮二郎・ス 位置づけられてきた。日本ポーツアドミニストレータ では、大学が運動部の運営による、日本の大学の運 には直接携わらない場合が 動部活動は「課外活動」と ほとんどで、責任の不明確



(ADへの取材をもとに作成)

練習の在り方見直す

ADは加入する運動部 それぞれ1人ずつ配置する。 硬式野球部では、練習中 各部のトレーナーは、効率 の熱中症を防ぐため、真夏 的な練習メニューの考案や 日は正午から午後3時の間 練習への助言、部員がけが を負った際の処置などにあ なる。これにより、現場の 安全管理に努めている。 年度は練習中に熱中症にな

大学の スポーツの 未来

2018年4月、日本で初 めてADを設立した。 ADは「スポーツの健全 化・最大化」を理念に掲げ、 大学運動部の安全管理の徹 底や運動部活動を通じた大 学の価値の向上を目指して

さる不祥事の頻発などの問 題が生じていたという。ス ポーツ庁は18年6月、日本 大アメリカンフットボール 部の悪質タックル問題を受 け「大学の部活動における 安全確保等について(依 頼)」を発表するなど、全 国の大学に運動部活動の安 全管理の見直しを求めてい た。筑波大はこうした動き に先駆け、米国を参考に

る部員が大幅に減り、限ら れた時間で部員全員が効率 的に練習できた」と話す。 女子ハンドボール部では 音波でマッサージをする機 械や自宅で手軽にストレッチが行える器具を提供する

つめ直す時間を作れるよう になった」と言う。 また、ADでは各部に超 議しながら、安全な運動部 の在り方を考えていきたく



男子バレーボール部のストレッチを指導するトレーナー(左)(1月21日、球技体育館で)＝國井俊介撮影

専任トレーナーを配置

ADの佐藤壮二郎・ス ポーツアドミニストレー ターに、ADの現状や課題 今後の目標などについて聞 いた。(聞き手・國井俊介)

「未加入の部も支援」

ADの佐藤壮二郎・ス ポーツアドミニストレー ターに、ADの現状や課題 今後の目標などについて聞 いた。(聞き手・國井俊介)



ADの課題を語る佐藤壮二郎氏(昨年12月26日、グローバルスポーツイノベーション棟で)＝加藤優花撮影

「内部資金で予算カバーしたい」

ADの課題を語る佐藤壮二郎氏(昨年12月26日、グローバルスポーツイノベーション棟で)＝加藤優花撮影

スポーツ教室で地域交流

ADは大学スポーツ改革 運動部活動での取り組みの 一環として、地域や海外 の大学との交流など渉外活 動の強化も図っている。



ホームゲーム開催時の硬式野球部の集中応援の様子(昨年4月28日、牛久運動公園野球場で)＝木村誠撮影

交流する場をつくるため、 シカゴのつくばブルー 地域イベントへの協力やス (フューチャーブルー)に 染まり、声援が選手た ちの力となっている。 昨年8月につくば市 で開いたスポーツ教室 には、ADに所属する 5運動部の部員たちが 指導者となり、無料で 実施した。参加した部 員は「地域と関わる中 で、筑波大の一員とし ての責任を感じたと 語った。

硬式野球部では、牛 久運動公園野球場で ホームゲームを開催 し、地元の少年野球 チームを招待してい る。同部の葛山さんは「ス 大学体育協会(NCAA) IIの会議に参加した。山

海外の先進的な取り組み学ぶ

田さんは「海外の先進的な 取り組みを学び、多くの大 学とビジョンを共有して大 学スポーツの改革を進めて いきたい」と語っている。

また、昨年は男子バレーボール部の部員4人 と監督を約2週間、米ハワイ大に派遣し、研修を受けさせた。同大は部員の学業支援や地域に密着した取り組みで知られている。今年1月には、ADの取

益化などにより、内部資金で予算をカバーしたいが、 まだまだADの歴史は浅く、その段階まで達していない。最近ADがメディアに取り上げられることが多く、存在を多くの人が知るようになった。活動に興味を持つ企業も増え始めており、協力してくれる企業を募っている。

ADと監督の考え方が対立することはあるか ADへの加入は監督の意思に基づいたため、考え方がぶつかることはほとんどない。ADと監督で緊密にコミュニケーションをとりながら活動を進めている。ミーティングで選手の声や聞くなど、部内の声を幅広く取り入れながら企画の立案・実施を行っている。

ADには大学の施設の管理権がない。そのため、気温や天気の影響で練習場所が変更される可能性がある。今まではうまくいった取り組みやそうでない取り組みを、未加入の運動部とも共有し、大学スポーツ全体の発展に貢献していきたい。

記者の声



西村大祐

べきなのは、公平性が保たれた入試方式を示すことだ。そのため、現場の声を耳を傾け、議論を重ねることが欠かせない。

筑波大は当初、一般選抜入試で民間試験の成績をレベル分けし、満点の200点を超えない範囲で共通テストの点数に加点する予定だった。見送りを要する。21年度入試については、共通テストの成績のみを用いる方針に転換した。

筑波大の清水諭副学長(教育担当)は本紙の取材に対し「国際化が進む中で総合的な英語力を可能とする道を模索し始め、国際平和協力法によって国連平和維持活動(PKO)に自衛隊が参加する道が開けた。その後の日本は、当初は活動を凍結されていたPKOの本体業務の凍結解除や、国連の枠組みの内外

はますます必要になる。(読む、書く、聞く、話すの)4技能を入試で測ることは重要だ」と語っている。22年度入試以後の4技能評価については、民間試験の利用の有無も含めて検討を進めると言う。

私は昨年9月、取材で英国を訪ねたが、実践的な英語力の範囲で共通テストの点数に加点

英語民間試験見送り 根底から崩れた改革の柱 現場の声重視し再検討を

【2面参照】2021年度入試から実施予定だった大学入試改革の2本柱の導入が見送られた。大学入試共通テストでの英語民間試験の活用と国語・数学の記述式問題のことだ。これらは議論当初から問題点が指摘されていた。決定が遅かったとはいえ、不備を認めての見送りの判断自体は、評価したい。

特に、民間試験の活用を巡っては、経済格差や地域差が影響する▽複数の民間試験を同じ尺度で評価することはできない▽民間試験の日程に学校行事が左

筑波時評

昨年12月4日、アフガニスタンで水路の建設や医療活動を行っていた中村哲医師が何者かに銃撃された。生前より憲法9条があるから日本人は海外で活動していても安全が守られていると主張し、憲法9条改正や自衛隊の海外派遣に一貫して反対し続けていた中村医師の死は、日本の国際貢献のあり方について改めて考えさせられる事件だった。

中村医師銃撃事件 中立性損なえば敵視の危険 国際貢献のあり方議論を

小切手外交と揶揄されていると認識から、自衛隊の海外派遣を拡大していった。

一方、自衛隊の海外派遣の促進は、活動における中立性の損失につながる。国連は、冷戦期は役割をPKOに限定し中立性を重視していたが、冷戦後は武力行使を行うようになった。武力行使を行う組織を支援すれば、悪とみなした集団から日本も敵視される危険がある。

中村医師が自衛隊の海外派遣の範囲拡大や憲法9条の改正に反対していたのは、憲法9条によって担保されている日本の中立性が損なわれるからである。

中村 健史 助教 (国際関係論)



人文社会系・助教。2013年防衛大学校総合安全保障研究科修了。博士(安全保障学)。同大特任研究員などを経て、18年より現職。

反射鏡

センター試験の思い出

最後の大学入試センター試験が1月18、19日に実施された。1990年の初回から約30年を経て、来年度からは大学入試共通テストに衣替えする。筑波大生には、センター試験にまつわるような思い出があるだろうか。中央図書館前で聞いた。(西村大祐II人文学類2年、梅津拓人II比較文化学類1年、田所涼II教育学類2年、大和祐菜II障害科学類1年)

【障害1年・女性】 数学で失敗し、合否判定していたことが後で分かってC判定が出てしまった。た。

【工学1年・女性】 筑波大を諦めようとも思ったが、2次試験に向けて気が持ちを切り替え、合格する。浪人したので2回受験し、友人が多く安心したが、波ニンク問題で野菜キャラクタが登壇し、話題になり受験し、緊張した。会場が京都大の歴史ある教室く面白く感じなかった。そのため、雰囲気圧倒された。

【生物1年・女性】 高校2年で過労を解いた時は5割程度しか得点できなかったが英語で9割以上取ることができ、うれしかった。受験すると思っ集中して勉強し、80点近くいた友人が会場に現れずまで点数を上げることができた。

【人文3年・男性】 地や動物園に行った。試験3日前から本番まで苦学だった英語の試験時間には体調不良が出るハニンクが起きた。でも、試験時間が延長されたことで解答時間も増え、むしろ助散々な出来だった。

【心理4年・男性】 朝、寝過ぎてしまい、予定していた時間に家を出ることができなかった。汗だくになりながら走ってどうにか試験に間に合うことができた。

【文言1年・女性】 試験中に地震が起き、半ばパニック状態に陥ってしまった。ところが、試験監督も含めた周りの人達は平然としていた。その光景を見て、周りの人と自身の感覚にズレがあるのを感じた。

【社学4年・男性】 会場になった建物の部屋割が、高校の友人と同じだったこともあり、それほど緊張することもなく、テストを終えることができた。



イラスト 長手彩夏 (地球進化学専攻2年)

芸能人の不祥事とメディア

違法薬物使用、事務所を通さない反社会勢力への「闇営業」など、芸能人のさまざまな不祥事が報じられていく。メディアはそうした芸能人の露出を控える方針をとる場合が多い。時には放映前の収録済み作品を撮り直し、市場に出回る音源や映像を回収する騒ぎも起きた。筑波大生はこうしたメディアの対応についてどう考えているのか。中央図書館前や春日エリアなどで聞いた。(國井俊介II社会学類2年、田所涼II教育学類2年)

【生資科1年・女性】 り、不祥事の話題を再燃させ、メディア露出することで、せしめようかもしれない。その芸能人に注目が集ま 本人のためにも控えたほうがいいのではないかと。そうやって騒ぎ立てることで自分たちのお金儲けに有名人名を利用するメディアもあるように見える。

【又創1年・男性】 不祥事を起こしている人を見て、同じことをやろうと思う人は少ないはずだ。メディアが露出自らする必要はないと思う。

【心理2年・女性】 作品に罪はない。ドラマなどは、役と役者の人格とは切り離して観るべきもので、封印はやりすぎだ。

【知識2年・女性】 不祥事を起こした人の出演作に注目が集まり、作品まで負のイメージを持ってしまふ可能性がある。風評被害から作品を守るという観点に立てば、封印という対応もわからなくはない。

構成3年展覧会「Sanagi」

「羽化」控えた40点を展示

芸術専門学群構成専攻3年生の作品を展示する「構成特別展覧会」が、12月10～18日、総合交流会館で開催された。学生40人が1人1点、パッケージデザインや絵画、映像作品などの作品を展示し、402人が来場した。

同展は、通称「ブレ卒業」と呼ばれる。展示した作品を卒業させ卒業制作とするパッケージデザインや絵画、映像作品などの作品を展示し、402人が来場した。



「自分の作業風景も作品の一部」として作業する高橋さん(昨年12月18日、総合交流会館で)

「Sanagi」の副題を付けた文谷真由香さん(芸専3年)は「卒業を蝶の羽化に例えて、その前の蛹である今の私たちを見てもういたい」と話した。

高橋要収さん(同3年)の作品「無呼吸」は、ある日突然人面魚に変わってしまった主人公を描いた未完の漫画と、その漫画のシナリオを高橋さんが読み上げる音声、そして机に向かい漫画を描いている高橋さん本人で構成されている。

1/100 展開催 「好きなもの」表現

筑波大の情報メディア創成学類と図書館情報メディア研究科の学生らによる展示会「1/100展」が、昨年12月12～14日に7A棟と7B棟で開催された。

同展は「デジタルコンテンツ表現実習」と「コンテンツ製作論」の講義の一環として開かれた。「自分の



音楽に合わせて輝くツリーを模した野崎さんの作品(昨年12月14日、7B棟で)

好きなものを100個あげて、そのうちの1つを表現する」というテーマで学生たちは作品を制作した。ジャンルは写真、映像、ゲームと多岐にわたる。複数の学生による共同作品も多く、31人の学生による23作品が展示された。

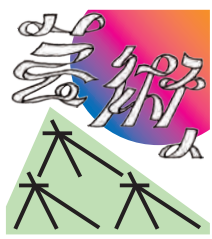
会場の一つである7B棟は暗室になっており、照明やプロジェクターを利用した作品が多く展示された。野崎陽泰さん(メ創3

吹奏楽団演奏会 観客400人を魅了

筑波大学吹奏楽団の第82回定期演奏会が、昨年12月12日にノバホール(つくば市吾妻)で開かれた。ポッブステージとクラシックステージの2部構成で、約450人の観客を魅了した。

第1部ポッブステージの最後は、英国のバンド「ユー・ロイド・ウェバー」が作曲したミュージカル「オペラ座の怪人」の劇中歌7曲がメドレー形式で演奏された。メドレー最後の「The Phantom of the Opera」は、怪人がヒロインをオペラ座の地下に招く場面で見られる曲。迫力ある和音で奏でられる幻想的な主テーマとともに、突如としてステージ正面に怪人の仮面が映し出される演出で、観客を魅了した。

同団指揮者の1人、松下虎太郎さん(日自3年)は「『オペラ座の怪人』の世界観を丁寧に表現することを心がけた。3年生が現役引退となる演奏会を、出演者全員が最高の形で終えることができて良かった」と話した。(中村瑞歩 日本語・日本文化学類3年、12面に関連写真)



筑波大学混声合唱団

筑波大学混声合唱団の第44回定期演奏会が昨年12月15日、ノバホール(つくば市吾妻)で行われた。四つの合唱曲集が披露され、約300人に歌声を届けた。

第1部は、学校生活をテーマにした小林香作詞、松波千映子作曲の組曲「箱船の教室」が演奏された。3曲目の「未来史」は、卒業を控えた生

重なり合う歌声で「物語」紡ぐ

徒が将来に想いを託せる様子を描いている。

ピアノの重低音の演奏の後、男声の力強く跳ねるような歌声で曲が始まる。先生が生徒に言葉を送る場面だ。ライト兄弟の初飛行など、夢を追いかけたからこそ成し遂げられた偉業を男声と女声が交互に歌いかける。

後半になると、ゆったりとしたテンポに合わせ、どこか別れの戸惑いを感じさせる歌詞が続く。そんな中、ピアノは終盤に向けて再び力強くなり、「僕らが夢見て世界

は変わる」と高らかに歌い上げられる。若者たちの未来にも希望を与えるかのよびに、明るい旋律で締めくくった。

第2部で歌われたのは、混声合唱のための3つのエチュード「お伽草子」。主に室町時代に書かれた短編の絵入り物語を題材に作曲された。1曲目の「浦島太郎」は、浦島太郎が亀を助ける場面を優しい男声で描き、竜宮城での生活を華やかにハーモニーで表現した。美しく響いていた浦島太郎が際立



リハーサルに臨む混声合唱団の団員ら(昨年12月15日、ノバホールで)

島だが、故郷が心配になり、一度地上に戻ることを望む。別れの際、乙姫と浦島は和歌を送り合う。二度と会えないことを知っていた悲しむ乙姫に対し、浦島は必ず戻ると意気込む。2人の切ない恋心を、海を連想させるような琉球音階を用いたメロディが際立

地上に戻った浦島が見たのは、何百年も時が過ぎて変わり果てた故郷だった。乙姫と別れた浦島の後悔と回想をはかなみハミングで表現し、物語は終わった。

第3部は、ドイツ語の合奏曲集で「プラムス作曲のワエルトリッヒェ、ゲゼンゲ」(世俗歌曲集)から5曲が披露された。

最後の「マス・メドゥヒエン」(少女)では、恋に憧れる少女が素敵な男性との交際を夢見、胸をときめかせている場面が描かれる。

少女は山の斜面に立ち、自らの美しさを誇りつつ「顔にヨモギの苦汁を塗って、おじさんにキスされないようにしてやる」と強気に歌う。一方で、「若い男性にキスされた時に、薔薇の香りがするように」と願う。

最後の曲の終わり、ピアノの重厚な音の残響がホール内にこだました。その後、盛大な拍手と感動とともに演奏会は幕を閉じた。(北川瑞菜 比較文化学類1年、写真も)



『線形代数とその応用』 G・ストラング 著

「自問自答」の先にある「絶景」

筑波大で線形代数とその特論を担当してかなりの期間になる。常々、学生から「分かりやすい参考書」の推薦を期待されるが、彼らが満足するような即効性のある書籍はない。例えば、旅先で「美しい景観が見たい」と観光案内に問いを投げたとしても、記憶に残る絶景を愉しむことはまずできない。百人いれば百人の美観と価値があり、自らの脚で求めずして感動はなく、その経験は人生の滋養とはならない。数学の学びも全く同様と考える。講義で繰り返して

いるが、数学は「数式」ではなく、「言葉」として学ぶもので、数理構造を頭の中に描き、言葉で表現せねばならない。この構造は、多岐かつ多面的で、切り口を変えていくことで異なる学術分野や実世界の諸現象へとつながっていく抽象的な景観である。

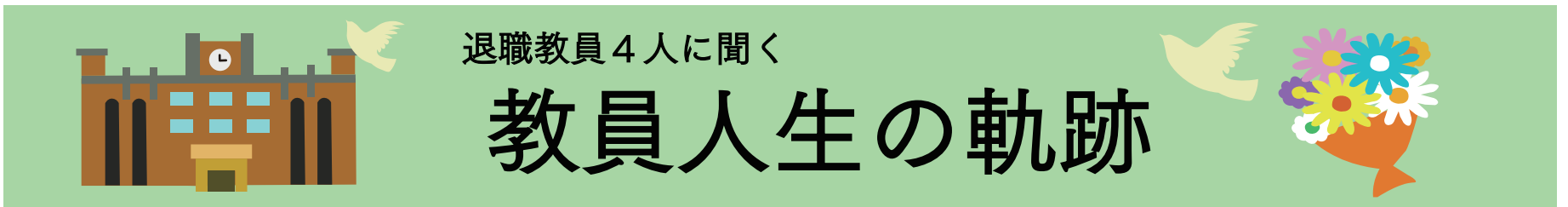
自学自習の一助として工学系の学生へ薦めている書籍が今回の一冊である。私がカオス・フラクタル理論という非線形問題を研究していた助手から講師の時代、大変お世話になった故山口昌哉先生(京都大学理学部)が監訳されており、「学術と実学は車の両輪」と指導頂いた通りに通常の線形代数の教科書とは一線を画す独特なスタイルで書かれている。盛り込まれている応用事例は、電気・機械の力学からマルコフ過程の統計まで多岐かつ多数である。諸概念の解説においても、特異

値分解を強調する一方で、ジョルダン分解を巻末付録に収める等、応用可能性を重視している。特に、1970年代の初版にも関わらず、数値計算上の安定性に注意を払い、計算機科学隆盛の現代に照準を合わせた先見性を備えている。開くたびに新しい発見があり、捲るたびに著者との対話が愉しいこの良書は、今でも多くの閃きを私に与えてくれる。

回りが許される学生時代にこそ、本書をガイドブックとして自分なりの景観を探してみたい。如何であろう。数学の自学自習とは、問題を作っては証明を行う「自問自答」の繰り返しの繰り返しである。多くの時間と根気が必要となるが、生涯続く価値のある経験、人生を大きく変えるような経験となるであろう。森の中に迷い込み、徒勞にくれた暁の一步で、大きく視野が開け、美しい絶景が広がる。学生には、そんな貴重な経験をしたいと思いつつ、毎回の講義をしている。

徳永隆治 教授(工学)

システム情報系・教授。早稲田大学大学院工学研究科博士(工学)。早稲田大学助手、加州大バークレー客員研究員、筑波大学講師を経て、2016年より現職。コンピュータゲームソフトウエア・アミューズメント機器・電子コミック配信等の産業応用に注力。



退職教員4人に聞く

教員人生の軌跡

日本の総合大学の中でも幅広い学問分野を有する筑波大。今春も研究者として、教育者として活躍してきた多くの教員が定年退職を迎える。その中から4人の教授にこれまでの軌跡とこれからを聞いた。(西村大祐 人文社会学類 後藤佳博 社会学類 田所涼 教育学類 大森春歌 芸術学専攻)

教職課程の改革にも尽力

ドイツの教育学者ルドルフ・シュタイナーが提議した「シュタイナー教育」の理論と実践を専門とする。大学院へと進学した。

大学院では、自身が高専時代のドイツ語を学んでいたことからシュタイナーに目を向け、彼の教育方法論について研究を始めた。

「偶然ながらシュタイナーも日本の高専に相当する職業学校出身で、そこから教育の道へと転進している。自分と重ねて見ていたところがあったのかもしれない」と話す。卒業後は関西

を何時間も見るのがつらい

シュタイナー教育の第一人者

退職後も続く 書家の道

中国の書の歴史を研究し、自身も「古代文字を真直に描く」書家として日本の書道界の発展に尽力してきた。2014年から4年間は芸術専門学群長も務めた。

出身は福井県。小学3年生から書塾に通い、書に親しんだ。一浪して東京教育大教育学部の書コースに進学した。

「学校はあまり好きじゃなく、読書に熱中した」という。大きな転機が訪れたのは、校舎がつくば市へと移り、筑波大学院に進学した翌年の1979年だ。

日中国交正常化を経て設けられた中国の国費留学生

研究者として1998年に筑波大に赴任。個人の心の内面を重視する日本の道徳教育と、シュタイナーのスピリチュアルな世界観に基づく教育思想を対照する研究を始めた。



吉田 武男 教授 (人間系・道徳教育学)

また、小学校教諭の実務経験を活かして、教職課程の改革にも取り組んだ。筑波大では、師範学校時代から受け継いだ附属小学校があるにもかかわらず、開学当初から小学校教員の免許が

取れない状態が続いていた。専任教員を新たに採用することなく、免許を取得できる体制を整えた。一小学校教員志望の学生が筑波大に入ってくることで、教育学類や教職課程全体に明るい雰囲気をもたらした。

退職後は、最初の就職先でもあった関西外国語大で教職課程を中心に教育活動を続ける。

教員生活を振り返り「研究でもなんでも、自分の我を通すよりも、少しは世間や連命の流れに沿う方が最終的にはうまくいくのでは」と締めくくった。

現場での 発掘を愛する

西アジア考古学の専門家としてイランやイラク、シリアの新石器時代の遺跡の発掘調査を盛んに行い、その最前線で活躍してきた。



常木 晃 教授 (人文社会学系・考古学)

西アジアを研究対象としたのは1977年、筑波大大学院1年の時に参加したイランでの発掘調査がきっかけだ。京都大の池田次郎教授(当時)に同行し、約4カ月かけて南イランの遺跡150カ所以上をしらみつぶしに回った。「西アジアは世界で最初に農耕が行われ、都市ができた地域。その遺跡を調査したことで、この地域が人類の歴史を解き明かす上でいかに重要かを実感した」と当時を振り返る。

1980年からはシリアに研究調査地を移した。最も思い入れの深い地域は、シリア北西部の町、イドリブだ。2007年には、イドリブのテル・エル・ケビ、アイデンティティとして遺跡を守れるよう、遺産の解説本をもとにした漫画を作り、子供たちに配布していた」と意欲を見せた。

発掘で明かす考古学の魅力

考古学の魅力は、文字の記録が残されていない当時の人々の姿を、残された物的証拠から描き出せる点だ。文字を持たない民族だったクルド人の遺跡発掘に携わった経験から「歴史は文献や石碑に残る文字を手掛かりにつづられることが多いが、考古学には、その陰に隠れたもう一つの歴史を明らかにする力がある」と熱く語る。

「今後は、イランやイラクを中心に研究を続けるつもりだ。最も長く関わったイドリブの調査の再開は見通せないが、落胆はしない。『またまた自分の役割が残っている。これからも西アジアの現場で発掘を続けたい』と意欲を見せた。

科学的 重要性伝える

専門は量子化学計算。量子力学の理論に基づき、コンピュータを使って物質の性質や化学反応の進み方を予測する。新たな材料や医薬品などを開発する際の

4月末には、東京での個展も控えており、32年間の教員生活にちなみ、32点の新作を目下制作中だという。

最後に、「書は生きています。これからは僕にしか書けない書を残していきたい」と語った。



中村 伸夫 教授 (芸術系・書)

書の歴史を中国で探究

当時、研究室の実験で電子スピン共鳴装置を用い

テラサイクル分子の特徴を調べていたことが、研究を始めるきっかけとなった。

現在は、有機半導体中で電子移動反応がどのように起きるかを予測する研究に取り組み。効率の良い太陽電池や有機ELなどの開発につながるという。

学生時代には、研究室の先輩が留学先から持ち帰った「量子化学計算プログラム」を大学の大型計算機で動かした。これは、物性や反応を計算機で導くもので、性能が十分とはいえない当時の計算機ではなかなか如理できなかったが、計算センターの職員と一緒に試行錯誤しながら実行にこぎつけた。「今では小さなパソコンでも手軽に扱えるようになった」と当時を感慨深く振り返る。

大学院の教育研究科では、目では、他分野の教員と共に地球温暖化などの身近な問題を題材に、化学について



守橋 健二 教授 (数理物質系・量子化学)

物質の性質や化学反応を予測

「ほほ笑みつつ今後の研究について語った。

退職後は、多忙で手を付けることができていなかった「密度汎関数法の研究をする予定だ。今は紙と鉛筆と小さなパソコンがあればどこでも研究ができる。ほほ笑みつつ今後の研究について語った。

学生に対しては「専門以外の分野にも目を向けて、興味を持ってほしい。理系の人も文系学問を学ぶことで良い刺激を受けると思う」と語る。

「教えた。成果は一現代人のための統合科学『ビックバンから生物多様性まで』(筑波大学出版会)として書籍化された。『文系の人にも科学に興味を持ってもらい、その大切さを理解してもらおう』が必要だ」と科学教育の重要性を語る。

旅立つアスリート



スポーツの強豪校として華々しい成績を残し続けている筑波大。今春も、活躍した多くのトップアスリートたちが母校を旅立ち、新たな舞台へと進む。その中でも大きな輝きを見せた4人の4年間の軌跡と今後の意気込みを聞いた。(飯田健介 社会学類、田所涼 電子内早紀 教育学類、大和祐菜 心理学類)

■自転車競技



梶原悠未(体専4年)

高速で展開する自転車競技のトラックレースで、元々、試行錯誤してきた。根拠のある練習をしてきたことが自信につながった。出ることができたスピードと持久力を武器に、世界を相手に戦ってきた。

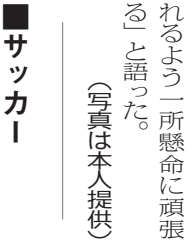


三笠薫(体専4年)

攻撃的なミッドフィルダーを本職とし、チームの攻撃の中心を担ってきた。最大の武器はドリブルで、

3年時に出場したアジア大会でもオムニアムで金メダルを獲得。昨年12月には、2大会連続でW杯優勝を果たした。

■サッカー

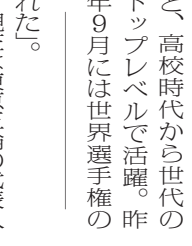


山下潤(体専4年)

2年時の天皇杯では、「ジャイアントキリング」を巻き起こした筑波大の中心選手として活躍を見せた。中でも2回戦・ペガサス対戦は決勝点を含む2ゴールで大金星をもたらした。自分にとってのターニングポイントだった。

2000位日本代表にも選出された。「4000リレーで優勝したい」という思いで、陸上競技の強豪校・筑波大に入学を決めた。入学後は1年時に日本学生対校選手権(日本インカレ)の2000

■陸上競技

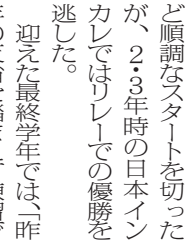


増澤すず(比文4年)

高校時代まで陸上競技の長距離を専門としていた。大学入学後に競技を始めた。経験など、今後大きな影響を与える4年間だった。

を達成でき、一番印象に残るレースだった」と振り返る。一方で、4年時には陸上競技部の主将も務めた。自身の競技に加え、チーム全体とも向き合うことになり、両立に苦労した。

■オリエンテーリング



増澤すず(比文4年)

高校時代まで陸上競技の長距離を専門としていた。大学入学後に競技を始めた。経験など、今後大きな影響を与える4年間だった。

培った脚力を生かした力強い走り、大学屈指の実績を積み上げてきた。競技との出会いは大学1年時の4月。偶然参加したオリエンテーリング部の新歓で初めて競技に参加し、森の中を走ることに楽しさを感じて入部を決めた。

Hello! 先端研究

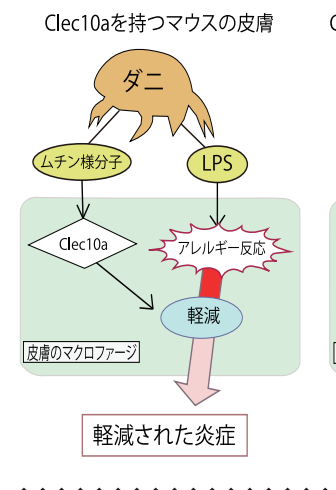


金丸和正助教

多くの人を悩ませているアトピー性皮膚炎。金丸和正助教(医学医療系)と渡谷彰教授(生存ダイナミクス研究センター)らは、ダニによって引き起こされるアトピー性皮膚炎を抑制する分子を世界で初めて発見した。副作用が少なく患者への負担の少ない治療の開発が期待される。アトピー性皮膚炎は慢

ダニによるアトピーを抑制 副作用少ない治療を目指す

胞と結びついてアレルギー性の炎症が起る。ダニは代表的なアレルギーだが、ダニによるアトピー性皮膚炎の発症メカニズムは十分に解明されていない。金丸助教らは、通常の環境で飼育するアト



ピー性皮膚炎を自然発症するマウスに注目した。このマウスの遺伝子を解析した結果、皮膚で働く免疫細胞のマクロファージに発現するClec10aという遺伝子に変異が見つかった。そして、正常なClec10aは、ダニ

ン様分子という種類の成分が含まれていることが明らかになった。アトピー性皮膚炎を発症したマウスの体表にマシ様分子を直接塗ったところ、Clec10aが活性化し、皮膚炎の症状が改善した。

ため、他の感染症にかかりやすくなるなどの副作用がある。この研究が進み、人体への応用が可能となれば、より効果的で副作用も少ない治療薬の開発につながる。金丸助教は新たな治療薬の開発につながる研究を進めることで、人の役に立っていきたい」と語る。(川久保 悠平 社会学類1年)

自己自身の性格を顧みず判断すると、私は熱く、冷たく、やさしい性格である。カタチから入るタイプでもある。思えば子供の頃からそう、その傾向の強弱はありつつも、全体的に大きな変化はなく今まで来ている。

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」

「好奇心こそデザイナーの命」



首都大学東京教授・カーデザイナー 難波 治 さん

「好奇心こそデザイナーの命」

箱根駅伝 不完全燃焼の主力3年生 「来年はもっと強くなれる」



競り合いゴールを目指す10区走者の児玉(左)(1月3日、泉岳寺駅前で) = 池田花於里撮影

【2面参照】東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が1月2、3日に行われた。筑波大は総合最下位に終わったものの、沿道やゴールにはチームを応援する多くの観客が集まり、選手たちを大学全体で後押しした。26年ぶりに本戦出場を果たした筑波大の、新たな歴史を刻む時計の針が動き出した。

陸上 記者の目

2位、猿橋拓己(社工3年)が同3位、昨年関東学生連合チームで箱根駅伝に出走した相馬素史(体専3年)が同4位でゴール。3年生の好走が、予選会突破に大きく貢献した。また、予選会出走できなかった人も、大土手嵩(同3年)ら予選会でチーム内6位の

小林竜也(体専1年)は練習や運営でチームの先頭に立ってくれた3年生がいたから今のチームがある」と話す。そんな3年生たちにとって今大会は、次の箱根を目指す上でも、大きな転換点となった。

本戦に出走した10人の選手のうち、3年生は半数を占める。1区に西、3区に猿橋、4区に大土手、5区に相馬、10区に児玉朋大(同3年)の5人がエントリーした。

しかし、それぞれの走りは決して満足のいくものではなかった。1区を任せられた西こそ「力を出し切る」とができた。2区間11位の健闘を見せたが、2区の金丸逸樹(同4年)から15位でたすきを受け取り、チームの順位押し上げを期待されていた猿橋は順位を下げた。主将の大土手もまさかの区間19位に終わり、「チームの順位を最下位まで下げてしまい申し訳ない」と悔しさを見せた。2

びわこ成蹊スポーツ大と対戦。山川哲史(体専4年)の2ゴールの活躍もあり、延長戦の末2-1で勝利した。続く準々決勝の相手は関東大学リーグ戦、総理大臣杯を制した大学3冠を狙う明治大。相手の猛攻を防戦一方ながら耐え抜いたが、終盤に力尽き0-1で惜敗した。

試合は終始明治大ペースで進み、筑波大は守備に追われる展開が目立った。それでも山川を中心に全員が体を張って守り続け、ゴールを許さない。一方で攻撃では、最前線で起用された和田育(同1年)が積極的な動き出しでボールを呼

び込んだが、なかなかパスをつなぐことができなかった。結局筑波大は前半シュートを打つことができず、0-0のまま前半が終了した。

後半、先にチャンスを作ったのは筑波大。54分知久航介(同3年)のロングボールを加藤匠人(同2年)が落とし、走り込んでいた和田がペナルティーエリア内で倒されPKを獲得。だがシュートは相手キーパーに止められ、先制のチャンスは逃した。

その後は互いに攻守が入れ替わるなど激しい試合展開に。筑波大はエース三番薫(同4年)を途中投入す



ロングボールを呼び込む和田(中央)(昨年12月16日、明治大戦で)

小井土監督「明治が強かった」 準々決勝で敗れる

全日本大学選手権

【味の素フィールド西が丘(東京都北区)で飯田健介(社会学類3年、写真も)12面に関連写真、大学日本一を決める全日本大学選手権(インカレ)が昨年12月11-22日に行われた。筑波大は16日の準々決勝で明治大と対戦したが0-1で敗れ、3年連続のベスト8敗退に終わった。

筑波大は14日の2回戦で

など攻勢を仕掛けたが、なかなかシュートまで至らず、苦しい状況が続いた。84分、自陣右サイドからの突破を許し、クロスからヘディングを決められ失点した。筑波大は山川を前線に上げパワープレーに出たが実らず、0-1で試合終了。3年ぶりのインカレ優勝とはならなかった。

小井土正亮監督(体育系・助教)は「明治大に攻め込まれることは想定内で、守備的なゲームプランで臨み、(筑波大が)やれることは全てやれた。明治大が強かったの一言に尽きる」と話した。

度目の5区を走った相馬は足に不調が現れて区間19位となり、「箱根の山は厳しかった」と肩を落とした。復路は岩佐一乘(同1年)、杉山魁声(同2年)、伊藤大貴(同2年)、川瀬由夢(医学5年)とたすきををつないだが、10区を走る児玉は繰り上げスタートとなり、川瀬からたすきを受け取ることはできなかった。

チームの主戦力として期待されていた3年生。力を存分に発揮することほかなわなかったが、得たものは大きかったようだ。

レース後の報告会で、彼らは「来年に向けて、チームとして強くなりたい」と口をそろえた。3年生は、自分ごとのようにチームに貢献できるかという言葉を問い直していた。大土手は「主将として、猿橋は「エース」として、相馬は「今の3年生が中心となって練習していけば、来年にはもっと強くなれる」と語り、上

Jリーグだけでなく海外も 5選手がプロの舞台へ



笑顔で合同記者会見に臨む選手ら(昨年12月23日、本部棟で)

サッカープロクラブに入団内定した筑波大学蹴球部の5選手の合同記者会見が、昨年12月23日に筑波大本部棟で行われた。

会見に登壇した選手は、三笠薫(体専4年)IIJ川崎フロンターレ、高嶺朋樹(同4年)IIJ北海道コンサドル札幌、山川哲史(同4年)IIJヴィッセル神戸、阿部航斗(同4

年)IIJアルビレックス新潟、大川圭(同4年)IIアルビレックス新潟シンガポール(新潟S)の5人。三笠、高嶺、山川、阿部は4選手はそれぞれ大学入学前の下部組織でプレーしていたクラブに復帰する。大川は「1年間で結果を残さないプロの世界ではやっていけない。どこまでチャレンジできるか楽しみだ」と意気込んだ。

(飯田健介、写真も)

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場。2月にはラトビアで開催さ

オリエンテeringは、日本学生代表選考会小牧ら7人 代表に

日本学生選手権ミドルディスタンス競技部門の関東地区代表選考会が昨年12月15日に矢板山苗代(栃木県矢板市)で開催された。今回は参加者が多かったため、男子は2部門に分けての開催となった。

筑波大では男子で小牧弘季(資源3年)が2部門総合1位となり関東地区代表に選出された。

このほか同選考会に出場した谷野文史(同3年)、名雪青葉(体専2年)、祖父江有祐(地球1年)、村田千真(応理2年)が同じく代表に選ばれた。

女子は小竹佳穂(資源4年)が代表に選ばれたほか、前年度の大会成績より、増



昨年開催されたユニバーシアードでコースを疾走する佐野(本人提供)

スキーオリエンテeringは、クロスカントリー用のスキーを履いてオリエンテeringをする競技。指定されたチェックポイントを、指定された順に回る。選出にあたっては昨年度の活躍が参考にされた。佐野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場。2月にはラトビアで開催さ

東京大学新聞

1920年の創刊以来、東京大学の「声」を発信し続ける

最新学術動向から身近な学内トピックスまで、日々東京大学から発信される旬なニュースを週刊でお届け。通常号のほか就職、大学院、受験、資格、入試等、テーマ別の特集号も含め年間42回発行

出版 東京大学情報本 『東大2020 考えろ東大』 1,500円+税

東京大学新聞年鑑2018-19 『東京大学解体新書』 1,500円+税

公益財団法人 東京大学新聞社

〒113-8691 東京都文京区本郷7-3-1 東大構内
電話 03(381)13506 E-mail post@utnp.org
ウェブサイト http://www.todaishimbun.org/company
オンライン版 http://www.todaishimbun.org/

東京大学新聞

定期購読のお申込は、お電話もしくはメールアドレスまでご連絡ください。

購読料金(送料・税込)

1年間	7,400円
2年間	14,400円

多様な攻撃で専修大突き離す 3年ぶり5回目 インカレ優勝



速攻からシュートを決める増田(中央)(昨年12月15日、専修大戦で)

【駒沢オリンピック公園総合運動場(東京都世田谷区)で加藤優花II国際総合学類2年、写真も。12月に開催された第71回全日本学生選手権(インカレ)が昨年12月9-15日にかけて行われ、筑波大男子は3年ぶり5回目の優勝を果たした。全試合の結果を受け、最優秀選手賞には主将の牧草利(体専4年)、優秀選手賞に増田啓介(同4年)と山口颯斗(同3年)が選ばれた。また、増田はアシスト王を獲得した。

バスケット

14日の準決勝では大東文化大と対戦。一度は大東大に試合の流れを奪われたものの、徐々に点差を縮めた。試合終了5分前、牧が放ったシュートが決定打。60-58で僅差を制し、決勝へと駒を進めた。

15日の決勝では専修大と対戦した。立ち上がりは相手に連続ゴールを決められたものの、牧のシュートで追加点を挙げた。その後、増田も相手のミスから速攻で追加点を挙げた。その後、増田も相手のミスから速攻で追加点を挙げた。その後、増田も相手のミスから速攻で追加点を挙げた。

【東京武道館(東京都足立区)で西村大祐II文学類2年、写真も。大学1-2年生が団体戦で争う関東学生新人戦大会が昨年11月24日に行われ、筑波大は優勝を果たした。同大会での優勝は2010年以来、9年ぶり。

9年ぶり 団体戦優勝

剣道

【東京武道館(東京都足立区)で西村大祐II文学類2年、写真も。大学1-2年生が団体戦で争う関東学生新人戦大会が昨年11月24日に行われ、筑波大は優勝を果たした。同大会での優勝は2010年以来、9年ぶり。

準決勝では昨年の優勝校・中央大と対戦。筑波大は先鋒戦、次鋒戦と2連勝するも、中堅戦では重黒木拓介(体専1年)が引きなげ、一本負けを喫した。

大将戦では森山竜成(同1年)がドウを先取された後、メンを取り返した。だが、相手にメンを取られてしまい、惜しくも敗れた。勝者数が2-2と同数だったが、筑波大の総取得本数が1本多く、僅差で決勝進出に勝ち上がった。

中堅戦では重黒木(体専1年)がメンを決め、一本勝ち。三将戦では近本太郎(同2年)が一瞬の隙にコテを取られたが、メンを取り返した。しかし、直後にメンを取られ、惜敗。副将戦と大将戦は引き分けに終わった。

大将戦終了時点、勝者数が3-3と並んだが、総取得本数は4-3と筑波大が1本上回り、筑波大の優勝が確定した。



東海大に対し、体を張り続ける杉山(中央)(昨年12月21日、東海大戦で) = 川久保悠平撮影

ミス誘うも相手の守備崩せず

ベスト8で敗退

全国大学選手権

ラグビー

【秩父宮ラグビー場(東京都港区)で明石尚之II体専専門学群4年】ラグビーの大学日本一を決める全国大学選手権が昨年11月24日から今年1月11日にかけて行われた。2年連続の出場となった筑波大は、12月15日に行われた3回戦で同志社大と対戦。48-17で、4年ぶりに選手権で勝利を挙げた。だが、21日の準決勝

勝つのは、東海大に3-24で敗れベスト8で敗退した。序盤は筑波大のペースで試合が進んだ。開始早々スクラムでは相手から2本連続でミス誘い、球際でも中原健太(体専3年)が隙を突いてボールを奪取するなど、FW(フォワード)の奮闘が際立った。だが、ラインアウトから一瞬の隙を突かれ、東海大に先制トライを奪われた。

その後は硬直状態が続いた。筑波大はゴール前で手元がおぼつかず、ノックアウトの反則が多発。一方、東海大もゴール前のラインアウトでミスをするなど、得点が入らなかった。球際でも東海大に「ジャッカル」を決められると、筑波大もノックオンを誘う鋭いタックルを決めるなど、一進一退の攻防が続いた。

前半終了間際にペナルティゴールを決め、3-7で迎えた後半。立ち上がりには、スクラムで押し合った。ゴール前で攻撃を仕掛ける時間を作るも、トライには結び付かなかった。

逆の後半13分、ボールを奪われると、一気に攻められ追加点を奪われた。後がないう筑波大は、相手の固い守備をこじ開けられない焦りから要所でミスを連発。38分には、これまで抑えていたモールでもトライを奪

われ、試合を決められた。筑波大はついに1本もトライを決められず、3-24で試合を終えた。

主将の杉山優平(同4年)は「東海大の最後の壁を崩せなかったことが全て。自分たちのミスもあるが、相手のプレッシャーが大きかった」と語った。

嶋崎達也監督(体育系・助教)は「FWの頑張りもあり、前半のロースコアは想定通りだった。ただチャンスが多くあった中で、相手のディフェンスを崩せなかったのは誤算。それでもみんなよくやってくれた」と選手をたたえた。

スポーツの顔

ハンド

昨年の全日本学生選手権(インカレ)では、2年生ながら筑波大の14年ぶり優勝の原動力となり、優秀選手賞を受賞した。また、昨年8月の世界ユース選手権ではU-19(19歳以下)日本代表のキャプテンとして世界の強豪を相手に互角の戦いを見せ、2大会連続のグループリーグ突破に貢献。将来を嘱望される逸材として注目が集まっている。

最大の武器はロングシュートだ。マークの少ない遠距離から放つ強力な一撃でゴールネットを揺らす。フィジカルの強さを活かしたシュートコースを塞ぐディフェン

でも、筑波大の窮地を幾度となく救ってきた。



U-19日本代表キャプテン

藤川 翔大 (体専2年)

中堅戦では重黒木(体専1年)がメンを決め、一本勝ち。三将戦では近本太郎(同2年)が一瞬の隙にコテを取られたが、メンを取り返した。しかし、直後にメンを取られ、惜敗。副将戦と大将戦は引き分けに終わった。

大将戦終了時点、勝者数が3-3と並んだが、総取得本数は4-3と筑波大が1本上回り、筑波大の優勝が確定した。

けがを乗り越え攻守で活躍

【秩父宮ラグビー場(東京都港区)で明石尚之II体専専門学群4年】ラグビーの大学日本一を決める全国大学選手権が昨年11月24日から今年1月11日にかけて行われた。2年連続の出場となった筑波大は、12月15日に行われた3回戦で同志社大と対戦。48-17で、4年ぶりに選手権で勝利を挙げた。だが、21日の準決勝

つくば市 リサイクル進まない現状受け ごみ分別アプリ導入



アプリ「さんあ〜る」の画面イメージ(つくば市提供)

ごみの収集日や分別方法などをスマートフォンで手軽に確認できる無料アプリ「さんあ〜る」をつくば市が9月末に導入することが分かった。市の担当者はアプリを通じてごみの分別収集の周知を進め、リサイクル率を引き上げたいと話している。(国井俊介)

つくば市が初めて。アプリをインストールし、自治体の中からつくば市を選択すると利用できる。ごみの収集日カレンダーや約500種類の分別方法・回収方法を確認できる。また、ごみ収集日を前日や当日の朝に通知する機能も備わっている。同市ではこれまで、むきだし状態の刃物や有害物質の水銀を含む蛍光灯などが燃やせるごみとして捨てられることがあった。ガス抜きせずに捨てられたスプレー缶が、ごみ収集車で圧縮され、爆発することもあった。

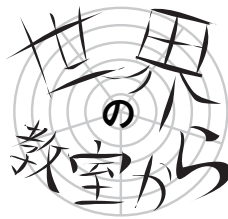


サッカーで国際貢献 チャリティー大会開催

サッカーを通じて国際貢献を目指す筑波大の学生団体「WorldFuture TSUKUBA」が主催する「第18回チャリティーフットサル大会」が昨年12月14日、筑波学院大サッカーフィールド(つくば市吾妻)で行われた。大会は年2回開催で、今回は筑波大サッカー同好会や社会人チームなど29チーム247人が参加した。大会では、サッカー初心

者でも参加しやすいビッグリーグと、サッカーサークルやスポーツが得意なチームが参加するアドバンスリーグが設けられている。前半はそれぞれのリーグ戦、後半はリーグ戦の上位チームによるトーナメント戦が行われた。サッカー元日本代表の中田浩二さん(社主専攻2年)がゲスト参加し、試合にも出場するなど会場を盛り上げた。

代表の久保田優芽さん(国際3年)は「これまで3つの小学校にグラウンドを建設するなどハード面の支援を重視してきた。今後は現地でサッカーの指導者を探してチーム作りを進めるなど、スポーツの文化が根付くような活動をしていきたい話した。(後藤佳佳 学生会学類2年)



ケルン大学 (ドイツ) 河下 未歩



「学生に優しい街」

「長期留学がしてみたい!」そんな漠然とした憧れから決めたドイツ留学からは約4カ月。私は、ドイツ西部のケルンという町に暮らしています。住まいは大学の学生寮、学生寮といっても筑波大の学生寮とは異なり、大学から30分ほど離れたところにあるため、大学まで電車で通っています。ルームメイトは、ドイツ人ももちろん、ウクライナやエクアドル、ナイジェリアなどからの留学生。バンクラデ

とても難しいですが、子どもたちにドイツ語を教えるつもりで参加させてもらっています。この教室で感じていることは「日本のアニメと漫画の普及力」。ワンピース、ハイキュー!!、キャプテン翼、名探偵コナンなど、子どもたちがいつもうれしそうに話してくれます。ある日「どうしてそんなに沢山知っているの?」と尋ねると、「ドイツの子供なら皆、テレビやユーチューブで見ているよ」と言われ、9000キロ離れたこの地で日本のカルチャーが浸透していることをとてもうれしく思いました。

土曜授業 教職の集中授業に影響 全代会アンケート 反対75%

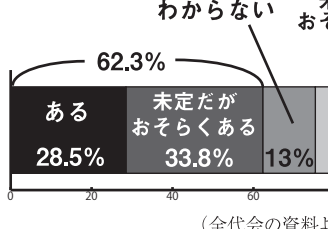
【一面参照】筑波大は東京五輪・パラリンピックの大会期間中に授業を行わず、その代わりに春学期に8回土曜授業を行う。全学学類・専門学群代表者会議(全代会)が昨年10月に実施したアンケートでは、回答した学生の75%が土曜授業に反対だった。また、土曜日に集中講義をすることが多かった教職課程科目の開講日程変更、他の科目の開講日と重複する可能性が出ているという。(西村大祐 遠子内早紀)

学生からは反対の声 全代会の教育環境委員会は昨年10月、インターネットを利用し、学群生を対象に五輪開催に伴う土曜授業に関するアンケートを実施した。回答総数は956件だった。「オンラインピックへの協力のために土曜授業を行うことをどう思うか」との問いには、75%の学生が反対と回答した。また、土曜授業があると実施できない活動(公演や公式戦など)が「ある」「未定だがおそらくある」と答えた学生が「学外団体が主催し、日程変更不可のイベント、大会への参加による欠を、最

五輪への協力のために土曜授業を行うことをどう思うか (956件)



2020年春学期中、土曜授業があると実施できない活動(公演や公式戦など)はあるか (956件)



(全代会の資料より本紙作成)

全代会担当者は「土曜授業の実施を検討している段階で学生の意見を聞くべきだった」と語った。教職課程に影響も 教員免許の取得に必要な教職課程科目には例年、土曜日に集中講義形式で開講されるものが多かった。グ

ローバル教師力開発推進室によれば、来年度は春学期に8回土曜授業があるため、日曜日や大型連休中に集中講義が開講される見通しだ。春学期に開講していた一部の集中講義を秋学期に移すことも検討中だ。また、小学校教諭の教員免許取得に必要な科目で、附属小学校の教員が担当していた授業は土曜日に実施してきたが、来年度は日曜日に移される。

同推進室の唐木清志教授(人間系)は「教職関係の講義の開講日程が変わること、学生が履修したい他の科目や必修科目の開講日と重なる可能性が十分にあり、できる限り重複がないようにしたい」と話した。



参加者らは説明を受けてからピクトグラムの作成に臨んだ(昨年12月10日、中央図書館で)

研究内容をピクトグラムに ワークショップ開催

「ピクトグラムを参加者にデザインしてもらうワークショップ」ピクトグラムは、非リンピックが昨年12月10日、中央図書館で開かれた。ピクトグラムは、非リンピックが昨年12月10日、中央図書館で開かれた。ピクトグラムは、非リンピックが昨年12月10日、中央図書館で開かれた。

参加した学生の一人は「ハート形に鍵盤をのりぬいたピクトグラムで、所属するサークル「ピアノ愛好会」を表現した。「サークルの特徴をうまく落とし込めた。最初はピアノ全体を描こうとして複雑になってしまっていたが、アドバイスを受けた後の完成品は最初よりシンプルなのに要点が伝わりやすくなった」と感想を述べた。

常口の表示なく公共施設で広く使われ、絵文字や簡単な語とも呼ばれる。学生や近隣住民ら約30人が参加し、研究内容やサークル活動、趣味などを表すピクトグラム作りを取り組んだ。イベントを主催したのは筑波大大学院図書館情報メディア研究科の科目「テクニカルコミュニケーション」の受講者たち。自分の研究内容やその重要性を伝える実践的な手法を学んでおり、その一環として企画した。日本ではピクトグラムが普及するきっかけとなったのは、1964年の東京五輪

田所涼、写真も

「新電力」トラブル相次ぐ

筑波大周辺でも「電気料金安くなる」

「電気料金が安くなる」と言われ、東京電力から「新電力」に乗り換えた筑波大生の間で、十分に内容を確認しないまま契約し、多額の料金を引き落とされるなどの問題が起きている。2016年4月、大手電力会社が地域独占していた電力の小売りが全面自由化され、家庭向けの販売に参入した新電力間での競争が激化。国民生活センターによると、強引な勧誘や契約時の説明不足などのトラブル相談が全国的に増加している。

（越智小夏、後藤佳代）

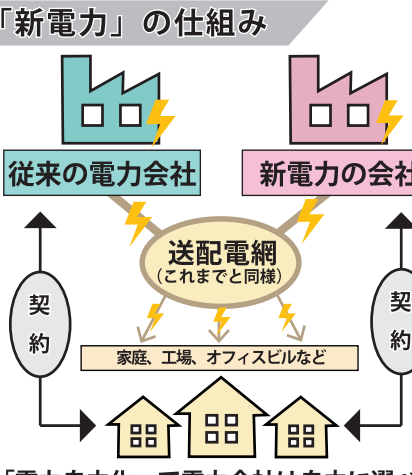
「知らずに」年間払い

筑波大3年の男子学生は昨年8月、つくば市春日の自宅アパートを訪ねた小売電気事業者A社から「東電から乗り換えたら料金が安くなる」と勧誘され、契約が1年分の電気料金を前払いする「チャージ式」だと気づかずに年間払いの契約をしてしまった。男子学生は「料金が安くはないが、月額払いの契約を解除した。約1カ月後に6万円が引き落とされた。契約内容の詳しい確認はしなかった。」

1カ月後に6万円が引き落とされた。男子学生は「東電から乗り換えたら料金が安くなる」と勧誘され、契約が1年分の電気料金を前払いする「チャージ式」だと気づかずに年間払いの契約をしてしまった。男子学生は「料金が安くはないが、月額払いの契約を解除した。約1カ月後に6万円が引き落とされた。契約内容の詳しい確認はしなかった。」

8万円の返金遅れ

筑波大4年の女子学生は昨年9月、やはりA社から同市春日の自宅アパートを訪ねられた。「料金が安くなる」と勧誘され、月額払いの契約をした。約1カ月後、A社から「まとめて支払うほうが安くなり、ほとんどの人が変更すること、チャージ式への転換を勧められ、1年分の電気料金を8万円を支払った。だが「大金を一度に支払ったことが怖くなったため同年11月、A社に月



「電力自由化」で電力会社は自由に選べる

払いする「チャージ式」だと気づかずに年間払いの契約をしてしまった。男子学生は「料金が安くはないが、月額払いの契約を解除した。約1カ月後に6万円が引き落とされた。契約内容の詳しい確認はしなかった。」

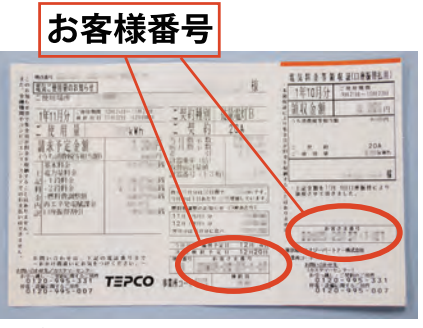
筑波大4年の女子学生は昨年9月、やはりA社から同市春日の自宅アパートを訪ねられた。「料金が安くなる」と勧誘され、月額払いの契約をした。約1カ月後、A社から「まとめて支払うほうが安くなり、ほとんどの人が変更すること、チャージ式への転換を勧められ、1年分の電気料金を8万円を支払った。だが「大金を一度に支払ったことが怖くなったため同年11月、A社に月

「検針票見せて」に注意

電気の検針票II写真には、氏名や住所のほか、「お客様番号」と「供給地点特定番号」などが記載されている。新電力などは、顧客が現在契約している電力会社にこれらの情報を伝え、契約変更手続きを行う。

国民生活センターによると、「検針票を見せられて」と言われた事例が非常に多く、検針票の写真を送っただけで、契約する電力会社を勝手に変更されたケースもあったという。

筑波大1年の女子学生は昨年5月、同市春日の自宅アパートを訪ねたB社に「検針票を見せられて」と



「検針票見せて」に注意。電気の検針票II写真には、氏名や住所のほか、「お客様番号」と「供給地点特定番号」などが記載されている。新電力などは、顧客が現在契約している電力会社にこれらの情報を伝え、契約変更手続きを行う。

国民生活センターによると、「検針票を見せられて」と言われた事例が非常に多く、検針票の写真を送っただけで、契約する電力会社を勝手に変更されたケースもあったという。

筑波大1年の女子学生は昨年5月、同市春日の自宅アパートを訪ねたB社に「検針票を見せられて」と

宿舎を臨時の研究室に

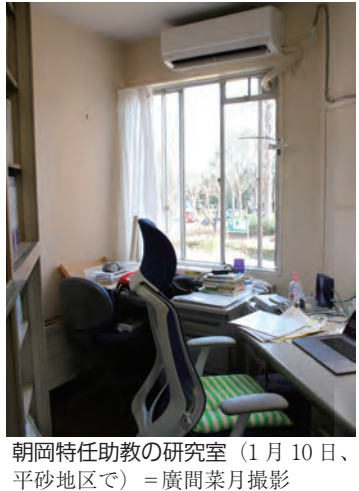
平砂9号棟 人間系学系B棟耐震工事で

人間系学系B棟の耐震改修工事が昨年12月に始まった。同棟に研究室があった教員約60人のうち、39人が昨年11月中旬に平砂学生宿舎9号棟へ移動し、臨時の研究室として工事終了まで利用する。1975年に建設された9号棟は老朽化を理由に2年前に閉鎖され、学生宿舎としては使われなくなった。

（梅津拓人）比較文化学類1年、廣間菜月 同1年、12面に関連写真

B棟は教員の研究室が置かれていた。文部科学省が求めている耐震性能を満たしておらず、耐震化が必要になった。耐震改修工事中は、建物全体が使用できない。研究室の移転先として学外の施設を利用する選択肢もあったが、少ない費用と手間で

多くの個室が利用できる学生宿舎が選ばれた。9号棟以外にも閉鎖された宿舎はあるが、人間工学的な観点から、9号棟を選んだこと話。朝岡特任助教の研究室（1月10日、平砂地区で）=廣間菜月撮影



朝岡特任助教の研究室（1月10日、平砂地区で）=廣間菜月撮影

現在の2部屋を使用している朝岡特任助教（人間系）は「研究室と別棟にある実験室との行き来が不便になり、不満もあったが、徐々に住めは都という心境になった。清潔で静かな環境が心地よい」と語った。9号棟では昨年5〜6月に、筑波大生が芸術作品の制作や展示をする「平砂アートムーブメント」が開催されていた。施設部は今後の9号棟の活用方法は未定だ」としている。

つくば市でも増加

国民生活センターによると、電力の小売りに関する相談件数は年々増加。昨年4月から9月までの相談件数は3097件で、昨年度の4977件を上回るペースだという。17年にガスの

お客様番号

「お客様番号」と「供給地点特定番号」が記載されている。新電力などは、顧客が現在契約している電力会社にこれらの情報を伝え、契約変更手続きを行う。

留学生ら日本の正月体験

「ニューイヤーパーティー」開催

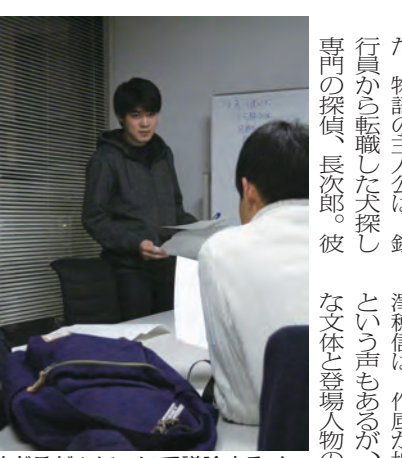
日本の「お正月」を体感しながら、留学生と日本人学生の交流を深めてもらうべく、グローバルヴィレッジで「ニューイヤーパーティー」が開催された。今年で3回目。イベントは、和太鼓サークル「筑波大学ときめき太鼓塾」による太鼓や笛の力強い演奏で幕を開けた。イベント中盤には餅つき体験が行われ、留学生が掛け声に合わせて餅をつき、きな粉餅やあんこ餅にして振る舞われた。続いて、目隠しをして箱の中の物を触り、何が入っているかを当てるゲームが行われた。箱に入ったスライムやたわしにおそろいのおそろい……。件は意外な方向へ展開していき……。発表者は鈴木融さん（日日1年）。「著者の米澤穂信は、作風が地味だ」という声もあるが、端正な文体と登場人物の巧みかだ。「犬はどこだ」に殺人の描写はなく、死体も登場しない。一方で、20世紀アメリカの作家ヴァン・ダインが設けた、ミステリー小説を書く際の指標「ヴァンダインの二十則」には「長編小説には死体が絶対に必要である。殺人より軽い犯罪では読者の興味を持続できない」という項目がある。メンバーからは様々な意見が飛び交った。代表者の神崎誠人さん（数学2年）が「ミステリー小説は幻想小説から派生した。私たちは非日常にひかれるのであって、死体にひかれるのではない。殺人以外の方法で非日常



餅つきを体験する留学生(左)（1月9日、グローバルヴィレッジで）

ミステリー研究会

放課後の中央図書館にミステリー研究会が集まっていた。年に50冊以上もの小説を読むメンバーもいて、会場のセミナー室にはミステリー論を語るに似つかない知的な雰囲気だ。ミステリー研究会では週に1度の活動日に、担当者が題材とする小説を選んで著者や関連作品を紹介する。作品に関連した議題が設けられ、発表の途中でメンバーたちが話し合う。メンバーは題材の小説を



小説「犬はどこだ」について議論するメンバー（1月7日、中央図書館で）

激論交わす「ミステリーのるつぼ」

事前の一読している。新年1回目の発表では「犬はどこだ」（米澤穂信）が取り上げられた。物語の主人公は、銀行員から転職した犬探しの探偵、長次郎。彼という声もあるが、端正な文体と登場人物の巧みかだ。「犬はどこだ」に殺人の描写はなく、死体も登場しない。一方で、20世紀アメリカの作家ヴァン・ダインが設けた、ミステリー小説を書く際の指標「ヴァンダインの二十則」には「長編小説には死体が絶対に必要である。殺人より軽い犯罪では読者の興味を持続できない」という項目がある。メンバーからは様々な意見が飛び交った。代表者の神崎誠人さん（数学2年）が「ミステリー小説は幻想小説から派生した。私たちは非日常にひかれるのであって、死体にひかれるのではない。殺人以外の方法で非日常

Who's Who?

筑波大生専用の時間割アプリ「Twin:te」を開発した

高梨 優也 さん (情科2年)



Twin:teの画面を見せる高梨さん (1月21日、中央図書館で)

筑波大生専用の時間割アプリ「Twin:te(ツインテ)」を提案し、友人らと共に開発した。Twins(ツインズ)から自動的に講義が登録できる上、欠席日数なども記録できることが好評を博し、「便利すぎて感動した」「他のアプリとは比にならないくらい使いやすい」など絶賛の声が集まる。昨年12月のリリースから1カ月足らずで約1000人の筑波大生が利用を始めた。早くも「筑波大生必携」となったアプリの生みの親だ。

茨城県出身。幼い頃から親の勧めで、タイピングゲームソフトや表計算ソフトを使うなど、コンピューターに触れてきた。小学5年のとき、こうしたソフトが全て「プログラミング」でできているということを知った。プログラミングを学べば自分でソフトを作れるのではないかと。早速図書館に駆け込み、プログラミング関係の本を読んだ。学業と並行して、独学で学び始めた。

初めてソフトを作ったのは文化祭の実行委員会に所属していた高校2年の時。文化祭の企画として開かれる「イントロクイズ」では、正解の音楽を先に出してしまふなど、パソコンに記録した出題音や効果音の流し間違いが多発していた。これまで学んだプログラミングの知識を使った解決策を考え、次に流す音が簡単に分かるパソコンソフトを自作した。友人からは「これは良いね」と喜びの声が上がった。イントロクイズは無事成功。後輩からは、「ソフトの作り方を教えてほしい」と頼まれ、高校のコンピューター室でプログラミング講習会を開いた。

専門的にコンピューターについて学びたいという思いから、筑波大の情報科学類に進学。学園祭実行委員会にも入った。委員会は、雙峰祭のウェブサイトを担当した。「自分がいなければ、サイトは成り立たない。重要な役割だと感じた」。

ツインテの開発を始めたのは大学1年の時。一般の時間割管理アプリでは、講義名や教室名を一つずつ入力する必要があることや、春Aや秋Cといった筑波大の「モジュール制」に対応していないことに不便さを感じた。

夢はネットワークエンジニア 人を支える仕事がしたい

「更に使いやすくしたい」。スマホアプリとして完成させることを目標に、大幅に開発を直すことを決めた。学園祭実行委員の友人とデザイン担当として、8カ月の製作期間を経て、昨年12月に完成。アプリはiOS、Androidのどちらでも利用可能で、パソコンやタブレットでも使える。このアプリを使うと、ツインズ経由で1年間分の講義の情報を自動的に取り込むことができる。講義ごとに出席や欠席、遅刻の回数を記録する機能や、アプリから講義のシラバスを見られる機能なども追加した。「SNS上でのアプリに対する感想を見ると、やって良かったなと感じる」と語る。

ネットワークの管理や保守をする「ネットワークエンジニア」が将来の夢。「インターネットは私たちの生活と切り離せないインフラで、根本を支える仕事はやりがいがある」と話す。

(北山瑠菜||比較文化学類1年 写真も)

吹奏楽団 定期演奏会



リハーサルでオペラ座の怪人を演奏する吹奏楽団の団員ら (昨年12月11日、ノバホールで) = 遠子内早紀撮影

5面へ

サッカー ベスト8で敗退



敵陣でドリブル突破を図る知久(中央)(昨年12月16日、明治大戦で) = 飯田健介撮影

8面へ

男子バスケ インカレ優勝



ドリブルでディフェンスをかかわす山口(右)(昨年12月15日、専修大戦で) = 加藤優花撮影

9面へ

閉鎖された宿舎に明かり灯る



人間系の教員の研究室として利用されている平砂学生宿舎9号棟(1月7日、平砂学生宿舎で) = 後藤佳怡撮影

11面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活

編集後記

「令和初」の三が日から筑波大の名が日本全国にとどろきました。陸上競技部の男子駅伝チームが26年ぶりに箱根駅伝に出場しました(1、2、8面)。私立の強豪校に立ち向かう姿に多くの声援が集まりました。本紙も取材班を編成して現地取材を行いました。▼ですが、楽しい話題ばかりではありません。フィリピンでの暴行事件、筑波大生が睡眠薬強盗の被害に遭いました(2面)。電力自由化に関するトラブルも起きています(11面)。更なる被害を防ぐため記事を書く

編集・発行

■筑波大学新聞編集委員会
 ▼委員長||土井隆義(人文社会学系・教授||社会学)
 ▼副委員長||佐藤勲(学生部)|
 ▼委員||菅谷純子(生命環境系・教授||果树園芸学)|
 竹中佳彦(人文社会学系・教授||政治学)

■筑波大学新聞編集部
 ▼編集代表||鴨志田公男(筑波大学・教授||サイエンスコミュニケーション)
 ▼編集長||西村大祐(人文社会学類2年)|
 ▼副編集長||後藤佳怡(社会学類2年)|
 加藤優花(国際総合学類2年)|
 ほか編集部員9人

次号は

4月5日(日)

発行予定です

発行所||筑波大学

印刷||ヒラマ写真製版